
偽りと、欲しいもの

由樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽りと、欲しいもの

【Nコード】

N1738A

【作者名】

由樹

【あらすじ】

僕は、君を愛している。いつも微笑みながら僕を翻弄する君を。

「会いたい」

そう呟き、

「嫌いよ、大嫌い」

と微笑む君。

君は一体、何を思っているんだ。僕はこんなにも君を愛しいと感じるのに。

「夕陽が見たいわ」

そう窓を眺める君を連れ出すと、海に行きたいと言う。

「さよなら」

薄っすらと笑う君は、寂しげでどこか嬉しそうで。

どうしたのかと尋ねる僕に、馬鹿ね、と微笑みかけ海の中へと向かった。

「待てよ！」

状況が呑み込めず慌てる僕の方を、振り向かない。

ちやぽ ちやぽ

どんとどんと歩いて行く君を、砂に足を取られながら追い掛ける。

赤い夕陽が、君と僕を照らす。

「あははっ」

突然君が、弾けたように笑う。

こんなに声を出して笑う君なんて見たことがない。一体、何があったんだ…。

「まだわからないの？馬鹿ね」

にこつと微笑む。いつもと違う…。

「ばか、バーカ。馬鹿」

ふふふ、と足元で水を軽く蹴りながら笑う君。楽しそうで、儂げで……。

ふと辺りが暗くなる。

二人を照らすのは灯台の微かな光だけ。君の白く透き通る肌が見えなくなる。

ただ呆然と立ち尽くす僕をちらつと見て、

「ねえ…本当にまだわからないの。貴方そんなに鈍かったかしら」
僕を試すような、きらきらした瞳。真っ直ぐで、強い意思が宿っている瞳。

「教えて欲しい？」

くすつと笑い、しゃがんで水をすくっては風に流す。

知りたい 今、君が何を考えているのか。

「貴方が、私に望んでいるのは何かってこと」

僕が君に…？何も望んではいないさ。君がそこに存在していれば良いんだ。

「ふうん、嘔吐き。貴方は欲しがり屋さんなのに」

欲しがり屋？

俺が？

何も欲しがってはいない。

だから君のしたいことを叶えているんだ。

「ほら、やっぱり欲しいんだわ」

いつの間にか、君の顔はいつもの微笑みを浮かべていた。

瞳には…周りが暗いからか、何の表情も浮かんではいない。

「貴方には、私が必要な。でもその理由は私の為じゃないでしょ。

貴方自身の為よ」

……。

「貴方は、優しい自分が欲しいの。相手を思いやり、誠意のある自分。私を利用して…ね」

そんなことは…。

「そんなことないって、自信を持って言える？」

そんなことは、ない……。

「最後まで、そうなんだわ。さよなら、優しい優しい貴方」

行かないでくれ……。
去って行く君に何も言えない。愛しているんだ。こんなにも愛しているのに……。

愛して……いた筈なのに。

(後書き)

久々の短編です。連載の合間にちよくちよく短編も投稿させて頂きます。連載だといつの間にか長くなってしまっているので、コンパクトになる短編も大好きです。評価やアドバイス、お待ちしております。読んでくださって有り難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1738a/>

偽りと、欲しいもの

2011年1月26日00時01分発行